
SUN DAY ! ! !

伊藤 嶺汰

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

SUN DAY!!!

【著者名】

20525M

【作者名】

伊藤 嶺汰

【あらすじ】

少年の日向唯斗は、いつもと変わらなく何も無い日を送りしていた・・・。そんな唯斗が周りを巻き込んで、気がかないくらい少しづつ、しかし気付いた頃には、かなり変っていくストーリー。

プロローグ

・・・世の中つて奴は、自分の思い通りには決してならない。運命で決まってるとか、神様が動かしてるとか・・・。皆は、テレビの見すぎなんじやないのか?・・・と、いつもそう思つてた。僕が、この平繩学園の中學2年になつた時も、進級したからつて誰も、何も言わなかつたし。

でも、あの日から何かが、変わりだしたんだ。あの日が、どんな日だつたかは、と詳しく覚えてない。ただ一番覚えてるのは、春なのに夏のように熱い日差しの日曜日だつたつて事だ。

プロローグ

プロローグ（後書き）

次回も、期待しててくださいね～。

朝は、デジタル時計の目覚まで、起きた。・・くそつ。ちよつと良い夢見てたのに。がっかりだよ。と、現実に少し失望してると・・。

「兄ちゃん。朝ですよ？早く起きて来てくださいーー」

・・・妙の湊の声だ そNII

「湊の料理は、美味しいな。うん、旨い。」

ふふふ、褒めるの上手いなあ俺。何故湊が、料理を作つてゐかつて？そりやあ、この家の親が、海外で、仕事やつてゐるからだ。どんなのか忘れたが、南アメリカだかに行つてゐらしい。

二二二

「そんなのはのんびりしないでくださいよ、サブリーフ。僕と湊は、少し早歩きで学校に行く。湊の焦る姿が、ややキュンとする今田の頃。

第一章（後書き）

短くやつてつてますんで・・・。

その頃、学園では・・・・・・

「おや？唯斗は？ああ遅刻ですか。」

「おおと、申し遅れました～。自分は、後藤ショウです。以後宜しくお願いしますね～。」

「そんな事今は、どうだつて良いでしょ。それより、知つてゐ？今田転校生が来るつて」

「こつちは、新城優香です。皆は、コウと呼んでます。この人のファンクラブがあるとか・・・。」

「いやいや、良くな無いですが・・・。まあ転校生というのもきになりますねえ」

「男子かな？女子かな？ああ～男子だつたらどうしようつ～」
ダメだ！！コウさん？あなたに近づこうとした男子は、どうなつた
か知らないでしょ。ファンクラブの執行部とかいう方達が、拷問
にかけるんですよ？危ないでしょ！～！

「ああ、オレは女子がいいかと」

「どつちでも、良いけどね～！」

「よくありませんよ！～！～！女子じゃなくちゃダメなんだ！～！
そして、あと3分程度でチャイムが鳴りそうなつていた。

その頃、学園では・・・・・・・（後略）

ええっと。文才なくて、すみません。
今回は、1・5話と二つことですかね。
次回もお楽しみに！

やつと学園に着いた。疲れた。

「じゃあ、ここまでですね」

「ああ、じゃあな」

湊とは、学年が違うので玄関ホールで、別々になつた。

少し歩いてクラスに入ろうとするが、やけに騒がしい。

「あ、唯斗だ。遅刻ぎりぎりだねー」

「ああ。てか何なんだよこれうるせえなあ」

「転校生だよ転校生！どんな人なのかな？」

ユウは、朝っぱらからテンションが高い。嫌になる。

「そつかい」

席に着いて改めて思つと、はつきり言つて微塵も興味は無い。ビリ
でも良いだろ・・・・。

と、そこで一度チャイムが鳴る。いいタイミングだ。

担任の高橋先生が、知らない女子を連れている。拉致したんだろう
うか・・・・。心配だ・・・・。

「今日は、転校生がいます。・・・・では、自己紹介をどうぞ」

・・・・・転校生だったのか。良かつた良かつた。

「ええつと。桐生奈緒です。宜しくお願ひします！」

「では、桐生さん。あの席に座つて下さい」

桐生奈緒は、こっちに来た。・・・・隣の席か・・あれ？俺に近づ
いてくるのか？何故？

「あの・・・隣だから、宜しくお願ひしますね」

この日からだ、僕の何かが、変わつてつたのは。

第2章（後書き）

駄目、だし宜しくお願ひします。

第3章（前書き）

ナレーション毎回変えてよいつと黙つてこる作者です。

起きたら夕方の5時だった。だいぶ寝たらしい。が、相変わらず暇である。

今旦は何もすむじことが無いので、じのままだらだらしてこみひと思つてゐると、ドアの開く音がした。湊が、帰つてきたのだね。あ、あらや？ 妙に声と足音が多いような、・・・・・。

第3章（後書き）

こつせんじつ 鼻を折るよつたな駄目だし宜しくお願ひします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0525m/>

SUN DAY！！！

2011年1月16日03時28分発行